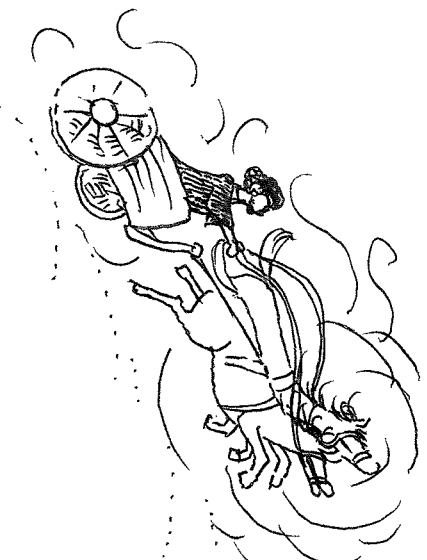


# いずみのひろば

2026年3月号  
日本福音伝道団教会  
NO.565 教会学校



## 『エリヤさんとエリシヤさん』



別注記 第2章 1-14節

エリヤさんは、預言者として神さまのお手伝いをたくさんしてきました。植物の神さまを信じて、ただの像を拜む主さまや人々に「それは、間違っています。本当の神さまにお祈りしましょう！」と言いつづけてきました。そのため、主さまから命をねらわれたり、一人きりで洞窟に隠れたり、稀い悪い獣しい思いをたくさんしました。でも、そんな時は必ず神さまがそばに居て、エリヤさんを励まし、守ってくださいました。

ある時、神さまが、エリヤさんにエリシヤさんという人を紹介してくださいました。エリヤさんと同じ預言者として神さまのお手伝いをする人です。初めは預言者のお仕事のことを、あまり知らなかったエリシヤさんは、エリヤさんのお手伝いをしながら、たくさん事を教えてもらって、一生懸命お勉強をしました。

やがて、エリヤさんが神さまの元に呼ばれる日が近づいてきました。エリシヤさんは、エリヤさんがいなくなった後、一人では預言者のお仕事ができないと悩んでいました。今ままでずっとそばに居て、色々な事を教えてくれたエリヤさんが、遠く離れてしまう事も、とても寂しくていやでした。それで、エリヤさんが行く先に、止められてもついて行きました。そうして二人がヨルダン川のほとりに来たとき、エリヤさんが筏を手にとって、川面をただたきました。すると、水が割れて地面が出てきたので、二人は向こう岸に渡る事ができました。そこへ、火の馬にひかれた火の戦車が火の神さまの元からやってきて、ついにエリヤさんをつれて激しい嵐とともに矢に昇っていききました。とうとう一人ぼっちになったエリシヤさんが望を身上げていると、エリヤさんの筏が、ひらひらと落ちてきました。エリシヤさんは、それを拾って川をただたくと、また水が分かれ歩いて川を渡っていました。神さまがエリヤさんと同じようにエリシヤさんのことも守っていてくださったのです。それから、神さまはずっとエリシヤさんのそばに居て、危険な事から守り、助けてくださったので、エリヤさんと同じように、いつばに預言者のお仕事を続けられました。

私たちも、神さまを信じて歩んでいきましょう。苦しい時や寂しい時、神さまを覚えてお祈りすれば、エリヤさんやエリシヤさんのように、神さまが守って支えてくださいます。私たちは、一人ではありません。必ず神さまがおそばに居て、すばらしい恵みを与えてくださっています。

(お話し 辻野 公美子先生)